

ポインセチアの切り花生産

ポインセチアの鉢物経営において、新規需要の開拓とともに収益性向上を図る目的で、鉢物生産に準じて栽培し、切り花として出荷する新たな生産方式が試みられています。しかし、切り花に適した栽培技術や、収量・品質・収益性等実用化を進める上で必要なデータが不足しています。東京都農林総合研究センターでは、本方式の実用性の検証を行い、技術的・経営的に可能なことを明らかにしましたので、その成果の概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 試験には、流通過程における着色葉の損傷軽減を図る上で有用となる苞葉が小さく、葉の展開角度が狭いという特性を持ち、鉢物として市場価値のある「ウィンターローズ・アーリーレッド（以下ウィンターローズ）、キャンドル・レッド、ジェスターレッド」の3品種を試しました。また、鉢は全て5号鉢、培土にはピートモスを主体（容積比60%）とする軽量用土を使用しました。
2. 苞葉の着色完了期（採花可能期）、鉢当たりの採花本数は3品種とも同程度でしたが、切り花長に関しては、品種間差が大きく、ウィンターローズが劣る傾向がありました。
3. 生産者による実際の栽培・出荷実績に準拠して収益性を試算したところ、「キャンドル・レッド、ジェスターレッド」では、出荷経費差し引き後の鉢当たり単価が鉢物の平均（5号鉢：600円）に近く、単位面積当たりの鉢数は鉢物生産の約4倍となり、単位面積当たりの収益性は鉢物より高いと推定されました。
4. 採花後の日持ち調査をしたところ、品種間差は大きく、「キャンドル・レッド」では約16日、他の2品種では約10日でした。なお、いずれの品種においても、切り花としての日持ち性に問題はありませんでした。

表 切り花長別の採花本数と売上金額の試算

品 種	長さ(cm)別採花本数(本/鉢)					売り上げ(円/鉢)	
	合計	50≤	40≤49	30≤39	20≤29	粗収益	出荷経費差引後
ウィンターローズ	5.0	0.1	1.7	3.1	0.1	686	386
ジェスターレッド	5.2	3.2	1.8	0.2	0.0	876	562
キャンドル・レッド	4.9	4.4	0.4	0.1	0.0	865	571

注) 販売単価 50≤：180円、40≤49：150円、30≤39：130円、20≤29：100円、出荷経費60円/本として計算

☆ 活用面での留意点

1. 実際の切り花生産では、鉢物生産に比べて出荷作業に関わる人件費が極端に高いので、収益性試算に際してはこの点を特に考慮しています。より正確性を期すためには、栽培期間中の管理作業労力（特にかん水）も評価の必要があります。
2. 市場における切り花の需要期はクリスマス直前まで存在し、鉢物の需要期より遅くなるため、切り花・鉢物を同時に生産しても出荷労力の分散が可能です。
3. 鉢上げ時期が早いほど切り花長は長くなりますが、当地域では、特産アサガオ栽培との関係から7月中旬が限界です。このため、栽培期間は鉢物生産の場合と変わりません。
4. 詳しいことは、東京都農林総合研究センター江戸川分場（電話03-3679-1458）へお問い合わせ下さい。（日本政策公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田 勝弘）